

# 大村市の橋の今とこれから

## 特徴 1

高度経済成長期に架設されている橋は16橋、それ以降に架設されている橋は60橋です。

架設後30年前後の橋が多い

## 特徴 2

これから20年間で急速に老朽化していく橋が増えます。

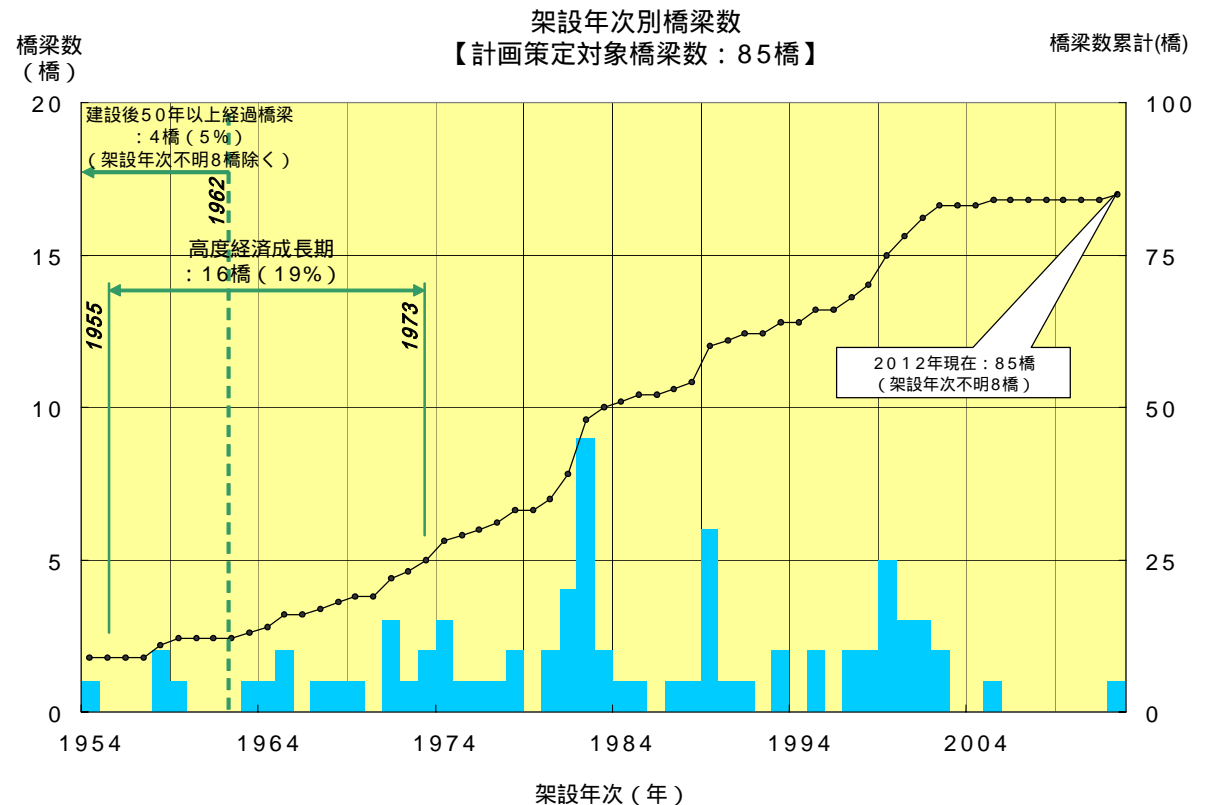
## 特徴 3

西側が大村湾に面しており、海風の影響により塩害を受けやすい環境にあります。

海風の影響で橋が劣化しやすい

今後急速な補修補強費の増大が予想される！ ➡ 橋の状態を常に把握し、計画的に対策を施す必要がある。

## 架設年次別橋梁数(橋長15m以上)



# 大村市の橋の特徴

大村市は、県内でも数少ない、まとまった面積の平坦地である大村平野を有する市です。長寿命化修繕計画の対象となる橋は郡川、大上戸川、内田川など市内を流れる主な河川に架かる河川橋に加え、長崎自動車道に架かる跨道橋があります。事後保全的な修繕から予防保全的な修繕への転換を図るためにも、計画的な維持管理を行っていく必要があります。

## 【郡川流域橋梁群】

・郡川に架設された橋梁  
(郡大橋・鬼橋など 22 / 85 橋)

## 【長崎自動車道橋梁群】

・長崎自動車道に架設された橋梁  
(坂口橋・後木場橋など 23 / 85 橋)

## 【大上戸川・内田川流域橋梁群】

・大上戸川・内田川に架設された橋梁  
(金丸橋・草葉橋など 14 / 85 橋)

## 【その他橋梁】

・上記3箇所以外に架設された橋梁  
(赤佐古橋・久原橋など 26 / 85 橋)



# 大村市の橋（計画策定対象）

計画策定対象橋梁（15m以上：全85橋）

番号	橋梁名称	路線名称	橋長 (m)	架設年次 (年)
1	広野笹ノ本1号橋	広野笹ノ本線	20.3	不明
2	弥勒寺橋	出口野田久保線	42.1	不明
	弥勒寺橋(水路橋)	出口野田久保線		
3	小佐古2号橋	小佐古暗瀬戸線	18.4	2001
4	小佐古1号橋	八幡神社大多武線	22.5	2002
5	赤佐古橋	赤佐古田ノ平線	18.0	2005
6	上水信橋	上水信橋線	54.8	不明
7	下稲川内橋	下稲川内橋線	72.0	1981
8	水信橋	八幡神社大多武線	38.4	1982
	水信橋(水路橋)	八幡神社大多武線		
9	後木場橋	本小路南川内線	41.1	1982
10	東平橋	上久原芋掘手線	40.1	1981
11	芋堀手橋	本小路南川内線	20.2	1991
12	今富橋	坂口皆同線	22.5	1990
13	丸山橋	段古川線	16.8	1969
14	今村橋	六郎平開線	68.2	1993
15	鬼橋	鬼橋線	64.0	1967
16	荒瀬橋	坂口皆同線	45.1	1995
17	南川内2号橋	南川内線	17.0	1995
18	本堂川橋(第1径間)	大村駅前原口線	11.5	1954
	本堂川橋(第2・第3径間)	大村駅前原口線	23.5	
19	金丸橋	西三城杭出津線	31.1	1974

番号	橋梁名称	路線名称	橋長 (m)	架設年次 (年)
20	郡大橋	杭出津公原線	100.2	1997
21	矢洲橋	田下荒瀬線	32.7	1974
22	荒平橋	八幡神社大多武線	18.6	1974
23	南川内12号橋	南川内線	15.0	1987
24	田ノ平橋	田ノ平線	33.5	1982
25	今村3号橋	溝陸田久保線	25.0	2000
26	鉢ノ久保橋	赤佐古田ノ平線	42.2	1982
27	井手ノ平橋	岩松下椎池線	41.2	1981
28	丸野水神橋	久津東野岳線	49.2	1989
29	河内橋	河内重井田線	16.0	1964
30	朝島岳橋	朝島岳橋線	38.8	2002
31	矢次橋	宮小路矢次線	55.8	1971
32	矢次2号橋	宮小路矢次線	20.0	1963
33	玖島橋	大村公園下久原線	17.9	1971
34	染石橋	染石野田線	42.9	1989
35	柿ノ久保橋	柿ノ久保徳泉川内線	46.4	1982
36	後谷橋	徳泉川内久原線	38.5	1982
37	宮園橋	宮園城野線	39.4	1980
38	迫ノ山橋	日泊今村大無田線	61.3	不明
39	石原橋	与崎島木場丸尾線	64.9	1981
40	高野橋	高野前平線	41.0	1989
41	草場橋	立石馬込線	51.7	1989

# 大村市の橋（計画策定対象）

番号	橋梁名称	路線名称	橋長 (m)	架設年次 (年)
42	今富橋	葛城山添線	40.2	1989
43	坂口橋	雄ヶ原也田2丁目線	56.3	1988
44	今村歩道橋	今村町4号線	37.1	1982
45	池田橋	池田2丁目4号線	54.0	1989
46	石場橋	石場線	37.0	1958
47	板小屋橋	黒木線	18.5	1965
48	山田2号橋	上諏訪町5号線	25.0	1984
49	陣の内2号橋	陣ノ内橋線	25.0	1978
50	水田橋	本堂川橋水田橋線	34.0	1998
51	大上戸橋	杭出津二丁目日本小路線	45.8	1973
52	鶴亀橋	杭出津二丁目日本小路線	21.5	1983
53	草場橋	東本町線	22.5	1978
54	椎葉橋	椎葉線	36.0	2012
55	久良原橋	久良原線	37.1	1998
56	長久寺橋	柴田町地線	28.1	1977
57	大原橋	大原林道線	21.0	不明
58	天神ノ木橋	日泊今村線	22.4	1993
59	萱瀬ダム橋	萱瀬ダム線	150.0	2001
60	材木小屋橋	萱瀬ダム線	24.0	1999
61	上長尾橋	木場赤佐古1号線	41.4	1982
62	豆腐屋橋	萱瀬ダム線	39.0	2000
63	弥勒寺橋	野岳弥勒寺線	18.2	1972

番号	橋梁名称	路線名称	橋長 (m)	架設年次 (年)
64	袈裟干橋	萱瀬ダム線	50.0	1999
65	店川橋	萱瀬ダム線	21.0	1999
66	子子橋	萱瀬ダム線	30.0	1999
67	子橋	萱瀬ダム線	40.3	1999
68	蛭橋	萱瀬ダム線	54.0	1997
69	小岳橋	黒木小川内尻線	18.0	1958
70	諸瀬橋	水主町町地線	21.7	1980
71	新城橋	水主町町地2号線	48.2	1983
72	地堂橋	丸山井龍線	15.5	1985
73	今村2号橋	善福寺田沢線	25.8	2000
74	萱瀬河橋	清水矢沢線	33.4	1965
75	白鳥橋	岩松白鳥線	30.0	1973
76	小江川橋	岩松川崎線	39.6	1976
77	山田3号橋	富松中社山田三号橋線	21.1	1971
78	似田橋	古松下西中小川内線	29.5	1975
79	西光寺2号橋	鈴田出張所前線	26.2	1959
80	常盤橋	常盤橋武宮線	16.8	1968
81	上諏訪橋	藤の川横尾線	74.5	1982
82	植松坂口1号橋	植松坂口線	22.0	不明
83	植松2丁目1号橋	植松2丁目線	22.0	不明
84	久原町地橋	久原町地荒川線	18.4	2001
85	久原橋	国立病院前線	19.5	不明

# 橋の健康状態を知るために

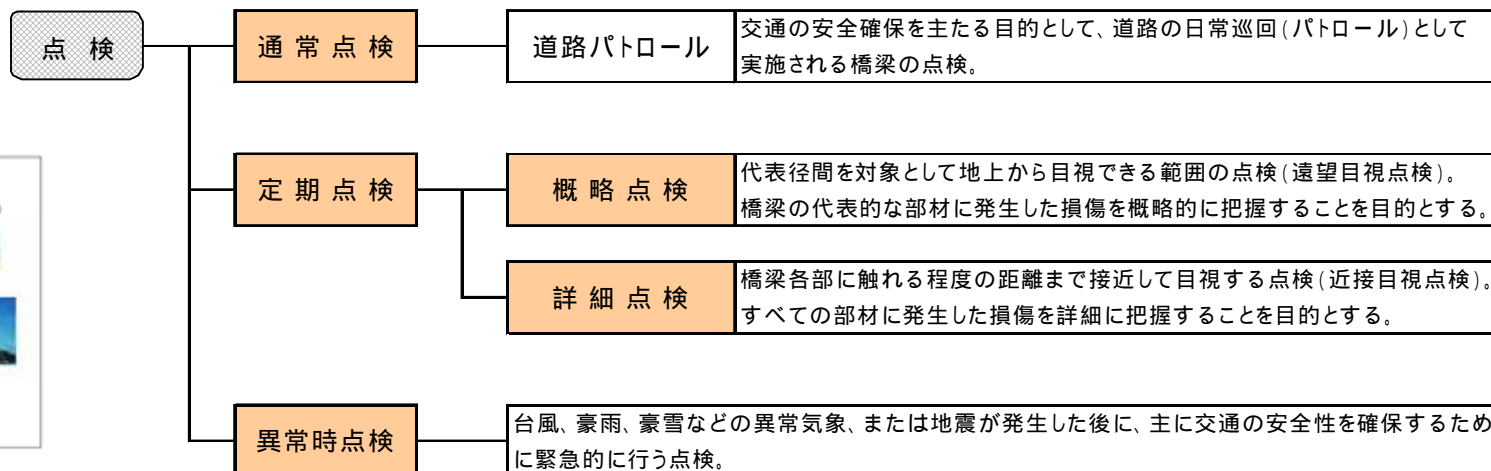


## 効率的に橋梁の健康状態を調査

長崎県は、橋の点検を、効率的かつ低価に実施することができるように、橋梁点検マニュアルを整備し、橋梁点検支援システムを構築しました。また、点検の体系についても確立しています。

大村市においても、長崎県により整備されている橋梁点検マニュアルを利用して概略点検を行うことにより、管理している橋の**健康状態を効率的に把握**することができました。

今後も定期的に点検を実施し、橋の健康状態を常に把握し、適切な維持管理を実施していきます。



# 橋の寿命を延ばすために

橋は市民の大切な財産です 次の取り組みにより橋の寿命を延ばして財産を守ります

- ・ 橋梁点検結果により、架替え検討もしくは修繕が必要と判断した橋については、**今後10年以内**で対策を実施します。
- ・ 他の橋についても定期的な点検及び早期の修繕に取り組み、橋を長持ちさせます。 **予防保全型への転換**を図ります。
- ・ 定期的に点検を実施し、橋の健康状態を常に把握します。
- ・ 財政状況を考慮した対策を実施し、**効率的な維持管理を実行**します。

## 今後の点検・修繕計画

	単位	H24 計画	H25 計画	H26 計画	H27 計画	H28 計画	H29 計画	H30 計画	H31 計画	H32 計画	H33 計画	合計
点検計画 橋梁数	橋	5	5	2	2	29	29	21	0	2	3	98*
修繕計画 橋梁数	橋	0	2	3	2	2	6	4	0	0	0	19

\* 点検計画橋梁数の合計については複数回点検を実施する橋梁があるため、対象橋梁数とは異なる。

**橋の健全性を向上させ、安全で安心な橋を保ちます。**

# 長崎県市町橋梁長寿命化検討委員会

本委員会では、橋梁長寿命化修繕計画の策定にあたり、学識経験者等の意見を聴取し、計画に反映させております（平成24年2月開催）。

## 委員会における議事内容の抜粋

本堂川橋については、決定的な損傷が見られないので、大規模な補修は考えなくて良いと思います。ただ、水処理が十分でないようなのでこれを機に対策を施すことは必要かと思います。板小屋橋については、架設されている位置、重要度等から考えて、補修方法を検討する必要があるかと思います。市で管理されている他の橋梁との兼ね合いも考える必要があります。

損傷が軽微な段階で補修を行うことで、維持管理コストの縮減と安全性の確保に繋がります。従来の事後保全的な修繕と予防保全的な修繕とのコスト比較を行い、効率的で安心できる維持管理に取り組む必要があります。

県下全市町でこのような検討委員会を開催できていることは、他の市町が管理する橋梁の損傷状況を目にすることができるというメリットがあります。今後は、補修方法等についても市町で共有できるような体制ができればより良い取り組みになると思います。



長崎県下各市町が「橋梁の定期的な補修によるコスト縮減効果」と「橋梁の健全性の維持」の両方について考慮して維持管理に取り組むことが必要です。  
市民の視点に立って、安全安心ということを念頭に置いておくことが重要です。

## 橋の長寿命化修繕計画

今回、対象となった15m以上の全85橋について長寿命化修繕計画を策定しました。

点検によって捉えた劣化損傷に対して、修繕が必要な橋から早めの対応を行うことにより予防保全型へと移行し、安全性を高めるとともに、将来にわたって維持修繕にかかるコスト縮減を図ります。

今回は15m以上の全85橋について計画を策定しましたが、今後は15m未満の橋についても長寿命化修繕計画を策定する予定です。

### 長寿命化修繕計画の実施方針

点検結果より修繕が必要と判断された橋は、**今後10年以内**に対策を完了し、維持管理水準を高めます。

長寿命化修繕計画策定後は、橋の維持管理を**予防保全型**へと移行し、**安全性の確保**と**コストの縮減**を図ります。

今後は定期的に点検を実施し、必要に応じて計画の見直しを行います。

修繕にあたっては予算の平準化を図りながら、計画的に実施します。